いわき民報

發行所
いわき民報社
平市田町一番地（電話三八一番）
編輯兼發行人 印刷人 千葉克己
日刊（但月曜日を除く）
定價一ケ月五円 一部二十錢

滯納の親玉は官廳

電話料金整理に苦しむ平局

集金制度とも平局で考究中

最近激増した電話の復舊と新設工事は、市の發展を裏書きするものとして喜ぶべき現象だが例年平局の特質として滯納者、遲納者が多いが、新回切換に依る封鎖拂ひと新設增加の納入狀況を歳入係に覗いて見ると、九月分の未納者は十月二日現在で九名、二十八日の締切後の納入者七十七名に及んで居る、しかも納入書の再發行が四十件に達してゐる有樣で、歳入係の電話は督促用にきり使はれてないといふ、係員も需要者や利用者の多い蔭に、こう云ふ手數をかける加入者が多いので非常に困つて居る、余り遲納者や再發行者が多いので局でも今集金制度を考慮中とあるが、遲納者の顔觸れは大体同じ加入者で毎月督促されて居ること、それに意外な事は何でも率先見本を示すべき筈の官廳が、逆に遲納の見本を示してゐることだ、地方事務所等は八月分と九月分をやつと二十八日に納入した位で、理由は會計が供出促進で居ないために出せなかつたとあるが、官廳の代表者が舊態依然たる官僚主義に生きて居る事がこんな些細な一事からもはつきり伺はれて係員は困却して居る、遲納者は原則として通話停止と三十錢の手數料をとる事になつて居るが、局では加入者の便利を考へて實施してないが此の点加入者の方も局の苦勞を今少し考へて期限迄に納入して欲しいと語つて居る

川内から一萬俵を

冬將軍邀擊に必死の燃料部

原料高による採算割れから冬將軍邀擊に備へこの木炭大增産運動も畫餠に歸しつゝある狀態に憂慮、市民に寒い思ひをさせてはと平市區配給統制組合では對策の研究中だつたが、市近郊の山からは到底供給は望み得ぬとあつて、この程野矢安孝燃料部長は組合員及び伊藤市長等と共に、川内村農業會を土産持參で訪れ、市民の窮狀を訴へ救援方を懇請した、この熱情に川内農業會も感激、救援を確約差當り十月中に先づ一萬俵を急送することを言明したので、野矢氏等はホッと胸撫で下して歸市したこれにより十月中には一應の配給の目鼻はついたものゝ、更らに引續いて全力を結集、集荷に狂奔中で、市當局もこの燃料部の努力に大きな感謝を捧げてゐる、野矢部長は語る

寒さに向つて木炭のない程辛いことはない、川内農業會で一萬俵急送してくれるといへ到底この程度では間に合はない、目下八方手配してゐるが市民も極力節約嚴寒に備へる準備を忘れないでいたゞきたい

皮膚科
泌尿器科
江尻醫院
平市大町四一
江尻伊三郎

今度の配給は全市に及ばず

地區配給組合燃料部では別項の如く木炭確保に必死の努力を拂つてゐるが、一日箕輪、澤渡及び船引方面から三千俵余の入荷があつたので、一應配給したが今回の配給は全市でない、從つて未配給地區は次回の入荷によるとある

牛乳配給協議

平市及び平酪農組合の牛乳配給打合せ會は二日市公會堂に開いた結果、一日平均二百本を本月からは三百本となし更らに五百本程度に迄することゝしこれに對し市側も飼料その他の援助をなすことゝなつた

温いこの同胞愛

食ひのばし保有米まで供出

御禮に秋肥用の魚粕を特配

市勸業課では農業會と協力、甘藷の早掘供出督勵に併せて各農家が今日まで食のばした保有米を市民の救援米へと供出を各戸別に懇請したところ農家側も市民の食生活に同情續々保有米、麥を供出三日に至り米十一俵大麥三十五俵、十八俵といふ大量の集荷をみた、この温い同胞愛に市もすつかり感激市民にこの厚意を傳へると共に供出農家へのお禮にと秋肥用魚粕を特配することになつた

洋畫專門の常設館を

名稱はオリオン座

綴の恵原氏が建設

内郷町宮恵原狩万夫氏は今度平驛前強制疎開跡地中馬目太平治氏所有地三百坪に、三百萬圓の巨費を投じて、洋畫專門の映畫館を建設することに決定三日先づ事務所建設を開始した、名稱はオリオン座として百五十坪鐵筋コンクリート塗込みの豪壯なもので千名からを收容する計劃とある尚資材一切は郡山から入るものとある

内郷町に相撲協會

全町擧げて青少年指導に

炭礦の街内郷町では血氣にはやる青少年の善導と、体位の向上をはかるため、根本町長を始め蒲生正利、南奥羽陸上競技會協會長鈴木喜政、内郷礦勞組長渡邊勝治、體協濱三郡相撲部長神好一郎、常磐炭礦内郷礦勞務主任圓谷兼四郎、警防團長佐藤三平の諸氏等の肝煎りで今度全町擧げて内郷町相撲協會が設立された、既に二万余圓の寄附も集まり、近く第一回の大會を開催すべく勞組側と協力、五百余名の青年少年が打ちまじつて猛練習を續けてゐる

ボーリング指定地區

郡關係は小名濱勿來山田三地區

東北の炭礦ボーリングは地質調査廳を中心に三ケ年計劃で實施に決定されたが、この程八ボーリング指定地區が決つた、中本縣關係は小名濱、勿來、山田双葉の四地區とある

引揚縣聯理事會へ

海外引揚者縣聯合會理事會は四日午前十時から二本松町に開かれるが磐城聯盟からは大野委員長松井、副委員長、中村常任委員が出席する

生業扶助會、接收工事解体、各種事業に對し當座の資金融通、既在組合加入斡旋、各聯盟事業体の連繋、案内者の件越冬準備等々

劇場には反對

借家人同盟と引揚聯盟立つ

注目の的平驛前の土地問題

平借家人同盟と海外引揚者磐城聯盟では平驛前強制疎開跡地の馬目太平治氏所有の三百坪に、内郷町宮恵原猪万夫民により洋畫專門のオリオン座劇場の建設計劃が樹てられ、既に湯本町佐藤輝哉氏により設計も完了されたのを聽き、引揚者を始め一般大衆も住宅難に惱みぬいてゐる折柄、この跡地は當然さきにゐた借地人に優先的に貸與すべきが當然である、殊に新劇場は三百万圓の巨費を投じ鐵骨建ての豪華なものとあるが、今日この厖大な資材と費を投じたら二萬圓程度の住宅なら百五十戸は建つ譯であるから、この際考慮するのが社會的見地からも妥當であると眞向から反對、石原知事宛に同盟と聯盟の連署に依る建設許可を與へぬやうにとの陳情を提出すると共に一兩日中に同盟委員長三森虎雄、聯盟委員長大野友春氏等の代表陣が地主馬目氏に、右三百坪はさきの借地人へ優先貸與さるゝやう交渉を開始することに決定した、問題が目下悩みの種となつてゐる住宅と土地問題だけに成行を注視されてゐる

妊婦用ネル晒配給注意

妊婦用晒および要兒用のネル、配給について市配給からのお注意

この程ネル券一、三三二枚、晒券四三二枚が届いたが、こんどから妊婦手帳により購入券の交付をする該當者は市配給課まで屆出でられ度いと

市長等出縣

供出割當打合せ

本年度産米穀、甘藷の割當の適正を期するため、伊藤市長は矢吹平農業會長、關場勸業課長、食糧對策生産專門委員代表鈴木勇氏と同伴、縣と打合せのため三日午前十一時平發列車で出縣した

蔬菜難漸く解消

今日大根里芋類大量に入荷

蔬菜難をよそに三日青果物荷受組合に茨城及び相馬方面から里芋九百貫、大根八百八十貫その他三百貫等計二千八十余貫が入荷、區域別によつて配給やら希望販賣等行つてゐる、連日蔬菜の配給にいま市民のお臺所は蔬菜難をよそにあふれて嬉し悲鳴を擧げてゐる

磐崎の溢死 磐崎村字白鳥、白鳥温泉喜米屋止宿成田志一（四一）病氣を苦にして三十日夜縊死した

いわき寸言

▼平局で電話料金の滯納に苦しむ、滯納の親玉が官廳とあるには驚く、一ケ月遲れなぞ平氣とある、舊態依然たる官僚振りは是正すべし

▼平窪の農家が、市民の食事情を憂慮、食ひのばし保有米や麥を供出、市を感激せしめる、この温い同胞愛こそ數量問題を超越して感謝すべきもの

▼炭礦の街内郷に相撲協會が生れる、血氣のやり場に困る青少年の指導上嬉しい限り、健全な發展を祈る

▼電話の改善に交換孃の補充を平局が行ふ、質よきものをと詮衡目標を樹てゝゐるが、優しく親切な交換孃を市民に望む官僚化は極力避けて欲しいもの

開業

品質優秀、薄利多賣
納期迅速をモットーとし
セメント瓦を
製造販賣する
皆樣の工場が愈々
十月上旬から開業の運びと
なりました
多少に不拘何卒御用命の程
御願ひ致します
石城郡大浦村上仁井田
（四倉驛下車徒歩十分）
坂本産業
四倉工場
工場主 坂本 豊

製粉開始

何處よりも
安く 早く致します
粉食協會指定工場
第一通信工業株式會社
製粉部
平市新川町六 電六四七
◈旋盤工募集◈

二男元彦儀 中支に於て戰傷死致候處今般遺骨到着仕候に付來る十月六日午後一時より二時迄途中葬列廢し性源寺に於て告別式を相營み可申候間此段御通知申上候
尚供物等の儀は乍勝手御辭退申上候一々御案内申上べきが本意に候處乍略儀本紙々上を以て御通知に代申候
昭和二十一年十月二日 平市揚土小路
父 阿部政右衛門
妻 阿部ゆき
親戚總代 小田吉次

淨寶院葬送の際は御多忙中にも不拘遠路御會葬被成下剰へ御鄭重なる御香奠を辱ふし御芳志之段難有奉深謝候早速拜趨御禮可申上御座候得共乍略儀以紙上御禮申述度如斯御座候
昭和二十一年十月三日
平市五丁目六番地
諸橋久太郎
外親戚一同

豆類や雜穀類は不作

地方事務所の集計に見る

郡內雜穀作付面積及收獲調査は從來縣で統計を集錄して居たが本年度の調査が二日附で地方事務所に集計された、之に依ると大豆は三千四百三十六石、小豆六百八十三石四斗、玉蜀黍二百二十四石四斗、ソバ五十四石五斗、粟百一石、黍八石四斗計四千五百七石七斗で主食增產のため作付面積も尠なく又天候、肥料の關係で案外の成績であつた方部別に見ると(單位石)

▼大豆、泉五八、渡邊一三〇植田三〇四、山田二四五、錦一八〇、勿來七七、上遠野一一五、入遠野二五三、川部五四、田人二一二、飯野五九、夏井六四、高久八二、豐間三六、江名四〇、鹿島一四二、小名濱一二四、磐崎一五〇、湯本二二、內鄉一二二、好間一〇二、赤井三二、箕輪一五三、三阪一三五、神谷六三、草野一三八、大浦四〇、四倉二一、大野一一九、小川九五川前七九

▼小豆、泉八、渡邊一九、植田三六、山田五〇、錦三、勿來一七、上遠野四五、入遠野七三、川部一七、田人六九、飯野八、夏井一五、高久四五豐間四、鹿島二六、小名濱七

衣類、金屬、書畵、骨董
高價買入レ
平市南町平館隣り　中央會館

湯本二六內鄉一八、好間一九赤井一〇、箕輪三八、三阪四〇、神谷一四、草野一七、大浦二一、四倉〇、四、大野二五、小川一八、川前一九

▼玉蜀黍、泉二三、渡邊五、植田三五、山田一三、錦三、勿來二八、上遠野一四、入遠野九、川部一五、田人一六、飯野三、高久二、豐間一、鹿島二、小名濱二、磐崎五、內鄉三、好間六、赤井〇、四、箕輪四、三阪五、神谷八、草野二、大浦三、四倉一、大野三〇、川前四

▼ソバ、泉一、山田七、入遠野二、田人一七、鹿島〇、五小名濱三、內鄉二、好間三、箕輪三阪二、小川四、川前九

▼粟、泉一、山田一、勿來一上遠野六、入遠野二四、田人三一、高久一、內鄉一〇、好間八、箕輪七、三阪三、川前八

▼黍、泉一、入遠野一、高久一、小名濱二、內鄉一、箕輪一、三阪一、川前〇、四

尙作付面積は、大豆四千八百九十九反、小豆一千三百十二反、玉蜀黍三百十三反、ソバ百二十七反、粟百三十八反、黍十六反耕作農家は一万三千六百二十戸とある

出產率は上昇

姙婦手帳の交付に見る

けふこの頃都會地と云はず農漁村と云はず金魚のやうにお腹のふくれた女性が目立つて多くなつて來た、本年一月以降市で姙婦手帳を交付した件數は

▲一月五八▲二月四五▲三月四三▲四月八六▲五月七一▲六月六〇▲七月七九▲八月八九

で何れも前年より二割增加となつてゐる、これに比しての出生率は

▲一月七〇▲二月四九▲三月五二▲四月五一▲六月五四▲七月三七▲八月五〇

以上の如くで既に九月に入つてからの出生件數は何んと四十五件を數へ終戰后の民生安定を裏づけてゐる

防疫基金へ一千圓を

湯本靑年同志會

湯本町靑年同志會では本社支局後援にて防疫基金募集懸賞藝能大會を三十日湯本座で開催したが一日金一千圓を基金として下さいと町役場に寄贈した

視力試驗設備が有ります
眼鏡
專門
各眼科醫療指定
玉屋
平市二丁目
進む文化に守る視力

嚴罰處分

專賣局寶刀を拔く

專賣局出張所では葉煙草增產に敢鬪する耕作者に對し月百本の割で特配煙草を贈つてゐるがこの親心をよそに耕作者のなかには特配煙草や葉煙草等を橫流してゐる傾向が見受けられるので斷乎寶刀を拔いて取締りに乘り出すとゝもに耕作者に注意を促してゐる

一時品金融
平市大町二七若松病院東橫
花澤

開放

投書を歡迎す要旨批判結構紙上可匿名

秋深む

▼日本經濟の命取りにならむとする病氣に、街醫者は膏藥を、漢法醫は煎藥を、外科醫は刀をもつて、國手は懊惱したであらう、さり乍ら細り切つた身體に一番大事な滋養物即ち主食の解快が先決問題のやうだ。(時事新聞所載)

▼INS通信極東總局長ハワード・ハンドルマン氏はから言つてゐる日本人は人と挨拶するとき、丁寧に頭を下げる、禮儀の正しい國民だ、それが汽車で、劇場で婦人を押し倒してまで自分の席を取る國民だ。又下駄をはく小さな國民、肥料の爲めに人糞を熱心に汲む國民、手車や牛車を用ひ、背中に重い荷物を背負ふ國民がよく四年間の大戰爭を戰つたものだと。再建日本の國民は三省すべきかな

▼九州の女學生の一隊が上京の車窓富士の姿が雲で見えないので、假りに旅館に一泊したといふ新聞の記事を見て、私はその女學生及び引卒の先生の氣持がよく判る、私も東京留學の朝晩駿河臺から富士の姿を見て、前途に希望を持つたものだ、B二九の目標だつたなど、富士の惡口を言ふを止めよ、日本國民は泰然自若、今に見ろと百年二百年先の日本を考へて默々と努力すべきだ

▼前記ハワイド・ハンドルマン氏は又から言つてゐる、日本は今食糧危機で米國から食糧の輸入を仰いでゐる、而も聯合國民も食糧危機なのだ、日本は敵國であつたことを識るべきであると、チクリと心臟に針をさゝれたやうだ

▼硫黄島から惠みの食糧を運んだ日本船長の話に、港には彼我の艦の殘骸横たはり、摺鉢山は依然として赤い土を光らせ、二つの墓標が立てられてあると、敗戰一年、食糧を貰いに行かねばならぬ姿を地下では何と思ふであらう

(三森虎雄)

生活と文化

源氏物語雜記

――小說的立場から眺めての私見――

千輝克己

(一)

源氏物語五十四帖は一見長篇小說の如くみられるが、その內容からみると只單に五十三の短篇小說を集めた一大短篇集に過ぎない。

どの帖を見ても女は男の訪れの絶えたことを喞ち歎いてゐるかさもなければ折角得た佳人を失つた男の悲しみばかりであるそしてこの主調音に抒情的な四季の風物が伴奏してゐるのみである。四季の風物を果敢ない戀愛に絡みつかせて、そこにしんみりとした〃もの丶あはれ〃を浮き彫りにさせてゐる點は流石に優れた才能を示してゐる。又容易に從ふ女とか、なか〳〵に從はぬ女とか各々の性質を區別して一人一人の女のシテューエーションを出來るだけ變化してみせてやうとしてゐる苦心は大きく買はれる。然し智、情、意を備へた人間は殆んど書けてゐない。この點からみると源氏は人間を書いた小說ではなく、或る情調を浮き彫りさせるために人間性の或る方面を犧牲に供してしまつた氣分本位の小說である。從つて性格の發展も一つの通つた事件の加速度的な展開もない。この點であの長塚節の小說〃土〃に夏目漱石が加へた非難と同じものが加へ得る。そしてこれが長篇小說といへぬ原因なのである。

源氏と一緒にすることは勿論當らぬが〃榮華物語〃や〃大鏡〃なども長篇の資格には缺けてゐるが〃源氏に較べると遙かに讀み良いし人間味に富んでゐる一例を擧げると道隆の酒癖を書いた一節にしろ潑溂たる人間味があると思ふ。これが現在の人々に何か源氏の縁遠さを感ぜしめる原因となつてゐることゝ考へさせられる。

あの〃もの丶あはれ〃をくつきりと浮き彫りにする優れた才筆をもつ紫にして、又あれ程の人間を登場させてゐる點からみて、そのテンポをもつと加速度にし源氏の君を始め全登場に、もつと強く〳〵人間の匂を吹き込んだならば、それこそ素晴しく立派な我々の胸をわくわくさせる一大長篇として世界の文學界の一大高峯となさしめたことであらうとしみ〴〵惜しまれてならない。

短歌　紫竹集

涙香抄

華かな繪にかも似たる月の出に
顯ちかへり來ぬはろかなる聯想

紫陽花はみつゝあかなく日の午
後を蝶ひらゝとぶ凉しさに居り

疲れ來て憩ふ窓邊にそとはかと
紫陽花はよし月にぬれつゝ

私の不足はいはじ朝を汚け露け
き瓶の黄菊に向ふ

朱雀乙女

灯を消せば白麻の蚊帳ほの〴〵
と君とみし夜の夢に泣かゆる

堪ゆるがに心けはしくなりまさ
るこの日この頃陽の明るさや

夏痩せかあらず貧しき戀ゆえに
面やつれしと人に知らゆな

吾が戀は天の火の戀子を求めあ
からさまにも燃えさかるかも

かにかくに父に似て欲しいまだ
みぬ子の名に迷ひ一人占ふ

いとしがる子等をかち得ばよし
やかの人の誹も堪え得るものを

かなしかる目無の鳥の戀の歌夕
陽あか〳〵山をめぐるも

むづかしき人の理責に眼を閉ぢ
て二人みし夜の夢に生くるか

華かな月光　瀰端滋子

情熱のほむらの如し海の果あか
〳〵として大きく月出づ

眼とづればはろかに戀ほしぬれ
〳〵の荒磯寄り添ふ影もおぼろ
に

うら安くゐよる寄邊の月明り淋
しくたゆれ人の戀しき

帶の如ほそき海邊の道ありて月
にぬれゆる影二つ戀ふ

月と魚　千鶴子

月影のそのまゝ落ちて魚となる
か古き泉に水音かそけき

十六夜のおぼろ月影さら〳〵と
川面に散りて白魚は寢る

月光を掬みてしのまばこれの夜
や吾も眞白き花と咲かまし

月光の透きたる水の底にゐねあ
でなる魚と吾はなりたる

――絲踊り――

虛榮てふ衣を捨てゝわが性をた
めす心地に舞の輪に入る

わが傍に君のおはしてきその夜
は舞の手素直に動かざりしよ

白き夢　るり子

いかならむ想ひも耐えてひたす
らに己が抱きし夢を愛づるも

靑蚊帳のさやかにゆれゐてうつ
ゝなの心は水底にゆるゝ思ひか

君思へば虹のごとくも美しく吾
かゝやける夢をみるかな

生きぬかむ思ひに向ふ根强さの
今更らにして怨しきかも

限りなき怒濤の海に吸はれゆく
思ひこそすれわが世の果ては

カメラと
寫眞材料部新設
カメラ高價ニ戴キマス
小名濱町役場前
田中寫眞場

一般塗裝工事請負
遠近を問はず出張工事御用命に應ず
營業案內
船舶塗裝
建築塗裝
鐵骨塗裝
自動車オートバイ
ワニス吹付
防腐劑
コールタール
塗裝一般
安島塗裝工業所
安島光照
小名濱町橫町四四番地電一七八

最新式帽子
機械仕上げ
帽子クリーニング
蚊帳の染替へ
元三丁目銀座通り
御贔屓に預つた
帽子店
どんな帽子でも
新しくなります
平市南町二四
丸伊帽子クリーニング店

時計新入荷
◈掛時計
◈置時計
◈腕時計
眼鏡、時計、萬年筆　修理販賣
ライター、喫煙用具
長い間御不自由をさせましたが漸く準備が整いましたから是非御來店下さい
平市驛前銀座通り
誠光堂時計店